

倉敷未来プロジェクト「倉敷屏風プロジェクト」2024



令和6年度 倉敷未来プロジェクト成果報告会の様子
(2025年2月14日、倉敷市役所)

- **主な連携先**
倉敷未来プロジェクト実行委員会
- **参加メンバー**
芸術学部 日本画ゼミ
- **活動地域**
倉敷美観地区（倉敷屏風祭 2024）、岡山後楽園（秋の幻想庭園 鶴鳴館）
- **活動期間**
2024年4月～2025年2月
- **活動資金**
倉敷未来プロジェクト実行委員会

目的

1. 倉敷屏風祭への参加を通じて地域活性化におけるアートの役割を考えると共に、倉敷という地域を知り、祭りに参加することで地域愛を育てる。
2. 伝承者が減りつつある和紙などの伝統素材や、それらを扱う伝統技術や表現形式を学ぶ。
3. 制作過程で日本の文化や知恵、日本画の画材や技法などに触れることで、日本の伝統文化を具体的に学ぶ。

連携に至る経緯

倉敷市は平成27年に制定した倉敷みらい創生戦略のもと、平成29年度より倉敷未来プロジェクトを実施している。平成30年から芸術学部と倉敷未来プロジェクトが共同し、岡山県表具内装協会の協力を得て、オリジナル屏風の制作の取り組みが始まった。それ以降、コロナ禍の時期を除いて毎年の倉敷屏風祭へ学生の新作の屏風を出品し、実行委員会などの関係者へその成果を発表している。

活動内容

1. 屏風を自作する

①骨締め、②裏押さえ、③ノコ入れ、④蝶番作り、⑤受け貼り、と複数の工程をかけてオリジナル屏風を制作していく。この取り組みを毎年実施することで、日本画ゼミの先輩から後輩へとノウハウを継承している。

2. 屏風に絵を描く

本紙を貼った屏風に学生たちが絵を描いていく(⑥)。数ヶ月かけて行うこの過程で、各自で自身の絵画制作に向き合う。絵が完成したら、⑦裏地貼り、⑧尾背貼り、⑨縁打ち、と伝統的な技法を使い、屏風を完成させる。

3. 屏風を地域で展示する

2024年10月19日～20日に倉敷美観地区で開催された倉敷屏風祭に、教員や学生等の屏風が展示された。また、11月の岡山後楽園 秋の幻想庭園の鶴鳴館でも制作した屏風が展示された。



活動成果

- ・倉敷屏風祭 2024 にて教員や学生らの屏風絵を展示
- ・岡山後楽園屏風展にて教員や学生らの屏風絵を展示
- ・倉敷未来プロジェクト成果報告会で学生が成果発表
- ・作品制作の様子を取材した報道（倉敷ケーブルテレビ）

今後の課題や展開等

- ・令和7年度 倉敷未来プロジェクトに参加して、倉敷屏風プロジェクトを新3年生とともに実施予定

参加した学生の意見・感想など

日々学んできた日本画や伝統文化の研究が「屏風祭り」を通して地域とつながった。

「倉敷」と「自分」が結びついた、そんな瞬間・実感を得られた。

(引用：倉敷未来プロジェクト成果発表会の発表資料)

芸術学部芸術学科 助教 原田 よもぎ



「字のない物語を描く」をテーマに制作活動を行う。主に日本画画材を使用した作品を制作し、近年は新しい屏風表現をメインに研究している。